

<調査結果報告>

消費意識と消費行動の変化に関する調査（2023年7月）

三重県内の事業所で働く人を対象に、「最近の物価高あるいは新型コロナウイルス感染症の5類移行などを踏まえて、消費の意識や行動がどのように変化したか」について調査しましたので、結果を報告します。ご回答いただきました皆様には厚く御礼申し上げます。

【担当】株式会社百五総合研究所 コンサルティング事業部 調査グループ 谷ノ上（たにのうえ）

三重県津市岩田21番27号 TEL059-228-9105、080-6961-5358

【調査概要】

- 調査期間：2023年7月中旬～7月下旬
- 調査対象・回答数：三重県内の事業所で働く450人

【調査結果】

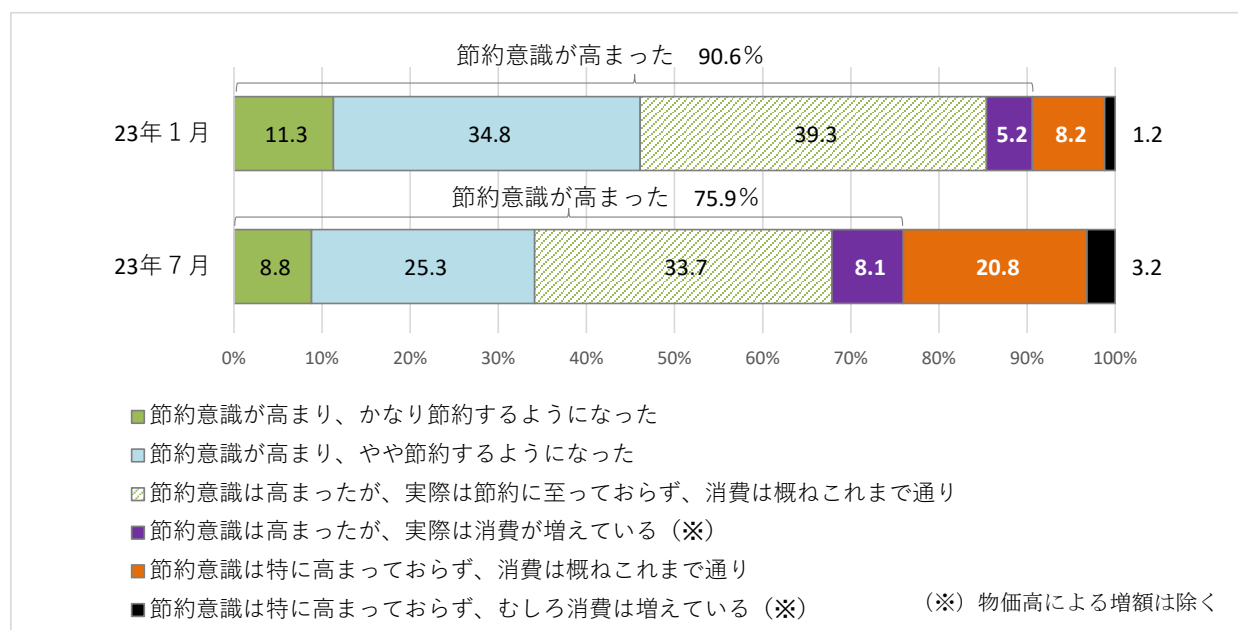
◆ “節約意識が高まった”は14.7ポイント低下。コロナ5類移行で消費意欲高まる。

最近の物価高あるいは新型コロナウイルス感染症の5類移行などを受けて、「節約意識（節約しようあるいは節約した方が良いという意識）が高まった」人は、75.9%となり、23年1月より14.7ポイント低下した。実際に「節約するようになった」人は、「かなり」と「やや」を合わせて34.1%まで低下した。

一方、物価高でも「節約意識は特に高まっておらず、消費は概ねこれまで通り」（20.8%）や、「節約意識は高まったが、実際は消費が増えている」（8.1%）、「節約意識は特に高まっておらず、むしろ消費は増えている」（3.2%）が、23年1月より上昇し、物価高を意識しつつも消費意欲が高まっている、また、節約意識が薄れてきていることがうかがえる。

「最近、特に消費が増えたもの」（基礎的支出※を除く）については、「外食・テイクアウト」、「レジャー費」、「交際費・人づきあい」などが、23年1月より大きく上昇した。

■最近の節約意識と消費行動の変化



（※）基礎的支出とは、光熱費、水道代、食料品（主食用）、医療・健康、ガソリン代、保険料などの費目。

* 詳細は、『景況調査 No.178』ご参照ください。

以上